



相生町の学術調査によせて

徳島県立図書館長 大 平 明 宏

総合学術調査は阿波学会と県立図書館の共催で昭和29年から毎年一市町村を選んで行われておりますが、平成12年7月26日から8月4日にかけてこの学術調査が相生町において行われ、このたびその内容が阿波学会紀要第47号としてまとめられ、発行される運びとなりました。

相生町は、全面積の9割までが山地であり、緑に囲まれた静かな農山村で落ち着いた雰囲気のある町であります。林業と農業が中心であります。もみじ川温泉や森林文化公園があり、また県内市町村で唯一美術館（相生森林美術館）を設置しております。町を訪れる人は多いと伺っております。また緑茶と相生オモトは全国的にも知られております。

このたびの学術調査には、阿波学会から21学会が参加され、23班、156人（延べ504人）が幅広い分野において、それぞれ専門的な観点から調査研究活動を行いました。その後、発表会や数回にわたる編集会議を経て、この調査活動報告がまとめられた次第です。この相生町学術調査報告書を今後の研究資料として、また、参考資料として活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、町全般にわたります学術調査に際し、町関係者の方々をはじめ、地域・団体の方々から多大のご支援・ご協力を頂きましたことを心からお礼申し上げます。また、酷暑のなか、真摯に、かつ精力的に調査くださり、この報告書をまとめてくださった学会員の皆様方に対しましても深く感謝申し上げます。